

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2024年8月24日発行 第97号


 カレンダー

～ 2024年2月～8月の活動報告～

日付	内 容	プログラム
2月2日(月)	絵本コンクール表彰式出発	函書
2月28日(水)	ぼらマッチ会議	運営
4月7日(日)	総会	運営
5月25日(土)	運営委員会	運営
6月6日(木)	愛知大学ボランティアツアー説明会	運営
6月18日(火)	カンボジア・タイ奨学金授与式出発	奨学金
6月20日(木)	カンボジア・サンパオルン郡奨学金授与式	奨学金
6月21日(金)	タイ・チェンマイ「カサロンの家」打合せ	建設
6月25日(火)	タイ・ナコンパノム県奨学金授与式	奨学金
6月26日(水)	タイ・ムクダハーン県奨学金授与式	奨学金
6月27日(木)	タイ・カラシン県、マハサラカーム県奨学金授与式	奨学金
6月28日(金)	タイ・ロイエット県奨学金授与式	奨学金
7月16日(火)	名古屋 NGO センター理事会	運営
7月17日(水)	ぼらマッチ会議	運営
7月18日(木)	愛知大学ボランティアツアー第2回オリエンテーション	運営
7月27日(土)	運営委員会	運営
8月2日(金)	愛知大学広報課ツアー出発(8月6日まで)	運営
8月5日(月)	愛知大学学生課ツアー出発(8月11日まで)	運営
8月23日(金)	ぼらマッチ会議	運営

●今後の予定

日付	内 容	プログラム
9月10日(火)	名古屋千種ロータリークラブ例会	運営
9月25日(水)	ぼらマッチ参加説明会(19:00～20:30)	運営
9月29日(日)	午前：運営委員会 午後：奨学金資料翻訳会	運営・奨学金
10月下旬	運営委員会	運営
11月23日(土)	名古屋千種ロータリークラブ タイ完成式ツアー(26日まで)	建設
12月7日(土)	ぼらマッチ2024	運営
12月14日(土)	国際協力カレッジ	運営

報告 1

～ おおしま国際手作り絵本コンクール 2023 賞状授与式前後 ～

キャンヘルプタイランドの図書支援プログラムの一環として参加している富山県射水市の絵本コンクールで 2023 年度の奨励賞をいただいたので、賞状を届けてきました。

2024 年 2 月、バンコクの FREEE 代表のムさんに同行してタイ南部を回っていました。なので 2 月 5 日はハジャイにいました。午前の便でバンコク・ドンムアン空港へ飛び、北バスターミナルから 13:00 発のスコータイ行きの長距離バスに乗りました。目的地はカンペーンペット・ピッターヤコム中高校。2022 年 12 月にひき続き 2 度目の訪問です。

翌朝の全校集会で賞状授与式セレモニーを行うので前日移動です。それまでの疲れもあり、到着の 19:00 過ぎまでぐっすり寝ていました。前回訪問時はわずかな滞在時間で学校が世界遺産の歴史公園の中にあることさえ知りませんでした。

体力が回復したのでホテルそばのナイトマーケットに繰り出します。名産品のパイナップルジュース、ジャックフルーツにもち米を詰めたお菓子など美味しく頂きました。巨大ネズミの丸焼きやネタ不明の寿司にも興味津々。公園のイルミネーションやピン川の流れの美しさにうっとりしながら古都の夜を満喫しました。

ピッターヤコム校の担当の若い男の先生ナットさんとの再会も嬉しかったです。彼は国語科の教師ですが実績が認められたのか、絵本コンクール応募は授業カリキュラムの中で取り組んでいるそうです。いつか日本に行きたいと言っていました。

翌 2 月 6 日、8:00 に学校到着。登校後の中高生約 3000 人が屋根付き広場に集まってきました。

今回の受賞作は高 3 の 5 人グループ (女子 4, 男子 1) 合作「A HOPE OF HAPPINESS」です。本当の幸せとは何かを問う内容でした。一人ずつ賞状と参加賞を渡しました。簡単なセレモニーのはずが、壇上にたくさんの先生方が現れ始め狭い中でタイミングよく渡すのが大変でした。緊張していたスピーチは、校長先生の長い訓話?のおかげであっさりカット。ホッとしました。写真撮影に入るとまたまた先生たちが増えてきて延々と続きました。その様子を見ている学生たちの辛抱強いこと。タイ人の写真好き(必ずミニハートも入る)はどこも同じです。



セレモニー後、5 人と少しだけ話すことができました。その週で高 3 生は授業が終わり大学受験がスタートするとのことでした。リーダー格の女子ピーラワット・ブンミーさんは、すでに有名大学に入学が決まっています。アニメーション関係の勉強をしようと言っていました。絵本受賞は心強い後押しとなったようです。他の 4 人も含めて夢に向かって羽ばたいてほしいものです。直接学生たちに絵本の感想を伝えることができよかったです。

その後勝手に授業の様子を見せてもらいました。覗いたクラスでは世界の観光地案内のプレゼンテーションをしていました。スクリーンの写真を見ると浅草や雪の白川郷が映しだされていて、内容が知り

たくなるほど楽しそうに紹介していました。

バスの時間まで時間があつたので、ナット先生が隣りの歴史公園を案内してくれました。小規模で地味な遺跡なのでアユタヤやスコタイに比べると知名度が低いと聞きました。人もほとんど見かけませんでしたが仏像やパゴダ(仏塔)が朝の光に輝き、時間がゆったり流れていることに感銘を受けました。

バスターミナルまで送ってもらう間、ナット先生から「NOTO の地震は大丈夫なのか」と聞かれました。射水市が能登半島の近くだと言うとびっくりしていました。

私は名古屋在住で被災していませんが、日本人として「心配してくれてありがとう」と伝えました。わずか半日ほどの時間でしたがとても有意義な滞在でした。絵本をきっかけに日本とタイの交流が深まったように実感しました。

最後に、作品「あのこのつくえ」(子ども絵画教室パイナップルスタジオ所属の小2~小6 児童7名合作)についてはキャンから努力賞を出し参加賞とともにムさんから郵送してもらったことを報告させていただきます。

報告者：伊藤朋子

報告2

～ カンボジア奨学金授与式 ～

6月20日(木)、カンボジア王国バタンバン州サンパオルン郡の郡庁にて、2024年度奨学金授与式を行いました。

6月18日(火)の夕方にベトナム・ハノイ経由でカンボジアのシェムリアップへ入り、そこで1泊して、19日のお昼前の乗り合いタクシーで目的地のサンパオルンへ向かいます。夕方にサンパオルンに到着し、そのままホテルへチェックイン。今回は、サンパオルン郡に昨年の11月にオープンしたばかりのホテルに宿泊したのですが、とても清潔で一部屋2,500円とリーズナブルでした。その後、アンさんや教育委員会のスタッフ2名と共にホテル近くのレストランで夕食を摂り、20日の奨学金授与式に備えます。翌日、朝食後に授与式会場へ行くと奨学生とその保護者がちらほらと会場へ来ていました。郡長さんの到着を待って奨学金授与式のスタートです。

この奨学金は、小学校低学年(1年~3年)の各学年10名ずつ総勢30名へ年80ドルを支援するものです。カンボジアでは、小学4年生から国の奨学金支援がスタートするため、それまでの応急処置的な意味合いのプログラムになります。



例年通り、郡のホールを使わせていただき、郡長列席の元で滞りなく奨学金授与式が開催されました。特に授与式初参加の小学1年生の子どもたちは、親も含め緊張の面持ちでしたが、なるべく庶民的でざくばらんな式典を目指しました。郡長のスピーチは少しだけ長めでしたが、30名の奨学生に80ドルの奨学金と共にちょっとした日本からのお土産（飴など）を渡し、何事もなく無事に授与式を終えることができました。



授与式終了後に学校の先生にポイペトという国境の街まで送ってもらい、その日のうちにカンボジアを後にし陸路でタイへ入国しました。そのまま国境近くのホテルで1泊し、次の日の朝7:00のバスでバンコクへ向かいました。実は、この日の午後バンコクからチェンマイへ飛行機で移動することにしていました。ですので、バンコクの中心部へ戻るバスを途中下車し、そこからスワンナプーム国際空港までタクシーで移動しました。なるべくタクシー代をケチる為に、グーグルマップで現在地を確認しながら、そして、タクシーのいそうな場所をバスのドライバーと相談しながら下車する場所を見定めました。結果、タクシー代は500円くらいでした。

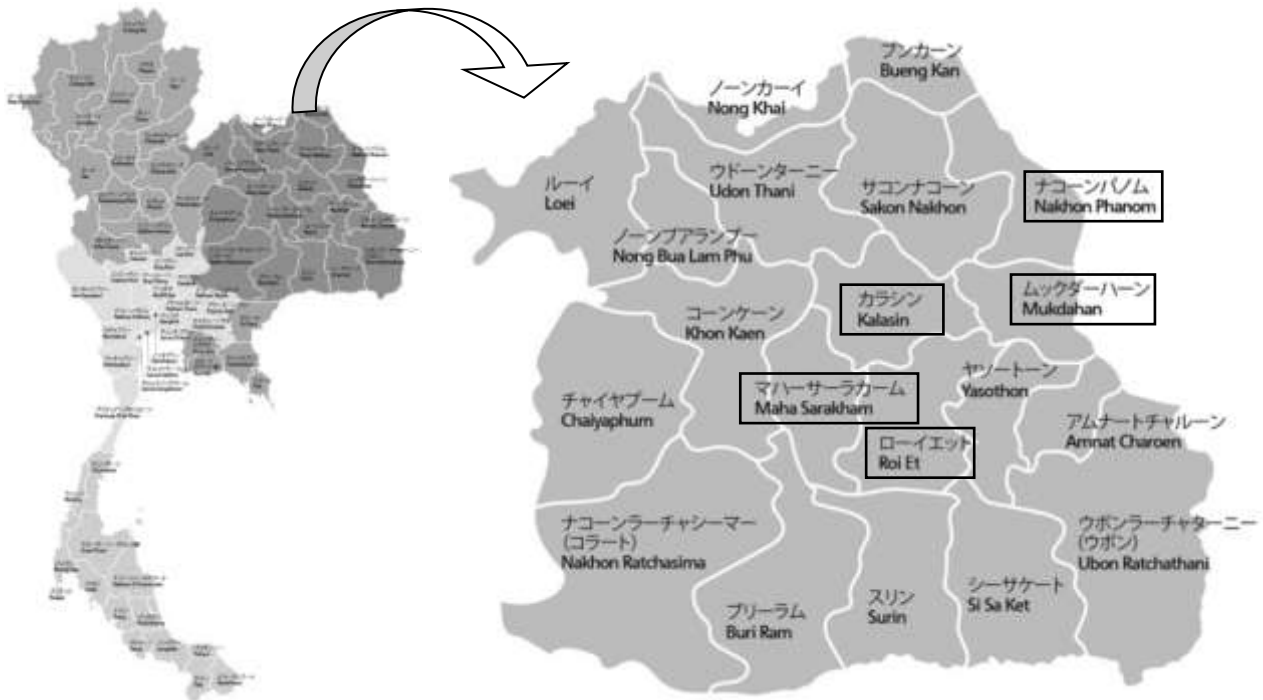
この続きは、報告4にて。

報告3

～ タイ奨学金授与式 ～

6月25日から28日までタイのイサーン地方5県を回る奨学金授与式ツアーに行ってきました。

25日の早朝6:30にバンコク・ドンムアン空港のロビーでムさんと伊東さんと合流し、そのまま国内線でナコンパノム県へ向かいました。地図をご覧くださいとお願いいたしますが、ナコンパノム県はメコン川沿いにある県です。今回は一番遠い県から順番に戻るルートです。



※地図はタイ政府観光庁のホームページから

ナコンパノム到着後、空港から街の中心部へ移動する途中に暮らす2人の家庭訪問と奨学金授与を実施し、午後から県の中等教育委員会の施設で奨学金授与式を行いました。キャンヘルプタイランドの奨学生とFREE（ムさんの財団）の奨学生、合わせて14名の奨学金授与です。その後、ムクダハーン県へ移動しました。

2日目は、ムクダハーン県での授与式です。メコン川沿いのホテルに宿泊し、朝食前に少しだけ散歩をしました。ムクダハーン県もメコン川を挟んだラオスとの国境の街で日本からの支援で建設された友好橋があります。さぞかし経済発展しているだろうと思っておりましたが、川沿いのインドシナマーケットは、護岸整備中の影響もあるのでしょうか、少し閑散としていました。たぶん、資金がショートしているのだと思いますが、これもタイのスタイルで、資金のあるだけ建設を進め、なくなればストップ。また資金が復活したら工事再開という流れです。来年が楽しみです。



朝10時からの奨学金授与式は、ムクダハーン県の奨学生14名とカラシン県からの奨学生1名の計15名に奨学金を支給しました。

午後からは、少し離れたカラシン県へ移動です。途中でカラシンからの奨学生の家庭訪問をして、道路端の食堂で昼食を摂ってからカラシンのホテルまで移動します。車で3時間くらいでしょうか。

3日目は、カラシンとマハサラカームの授与式ダブルヘッダーです。午前中のカラシン県では19名の奨学生へ支援しました。昨日のムクダハーン県での授与式で一人のカラシン県の学生へ支援しましたのでカラシン県の学生は計20名となります。午後はマハサラカームへ移動しますが、途中、退院日と重なり授与式に出席できない学生のため急遽病院で授与式を行いました。昼食後、正式な授与式会場へ移動し、マハサラカームでは計18名の学生へ奨学金を支援しました。



ロイエットへ移動する途中で1件家庭訪問をしました。昔ながらのタイの高床式の住居で、1階でおばあちゃんが機織りをしていました。この家の奨学生に「機織りをやったことがある？」と聞いてみたら、「できない。」と答えました。この伝統文化がこのまま廃れていってしまう事はとても残念ですが、それだけでは片づけられない時代の流れがあります。電気などの動力を使わないでも布を作れる技術は、このまま途絶えてしまっても良いのでしょうか？ ちょっと考えてしまいました。

4日目は、ロイエット県で授与式を行います。ロイエット県の授与式会場では15名の奨学生を支援しました。授与式後、会場から遠い学生のために別の場所で3名の学生へ奨学金を授与しました。そのうちの一人の学生は、近くの市場で総菜を販売する仕事をしている両親の子どもですが、父親は足が悪く、まともに歩けないので家で販売用の総菜を作るのを手伝っています。母親はそれを早朝から夕方まで市場の売店で販売します。家庭の収入は決して多くないですが、娘はとても賢くて、大学進学も視野に入れています。こういう子どもたちのための奨学金支援は、ほんとに有意義だと感じました。ロイエット県ではトータル18名の学生を支援したことになります。



夜、ロイエット空港からバンコクへ戻ります。到着後、解散となりましたが、今年も大変実りのある授与式ツアーとなりました。このツアーは、経費をご負担いただけるならどなたでもご参加いただけます。もし興味がございましたら、ぜひタイの田舎を肌で感じてみてください。ご連絡お待ちしております。

報告4

～ 愛知大学学生ボランティアツアー ～

カンボジア奨学金授与式の後、タイでの奨学金授与式までの間、チェンマイで愛知大学のツアーの打ち合わせをしました。久しぶりの大学生ツアーという事もあり、日程の確認、学生の部屋割りや引率の大学関係者の部屋割り、食事、移動手段など確認事項は多岐にわたります。何より、今回は、2種類のツアーを連続で開催することになっています。グループ1が、8月2日から5日までの広報課のツアーで、24時間テレビの企画で愛大生がフェアトレード商品を開発し、その売り上げの一部をカサロンの家へ寄付するという内容のものと、グループ2として、8月5日から8月11日までの通常の学生課のボランティアツアーが実施されます。グループ1の方は、愛大の女子学生16名とピサヌローク県にあるナレスワン大学の学生9名（女子7名、男子2名）の計25名の大所帯です。そこに愛大の引率者2名（男女各1）とナレスワン大学の引率者（女性1）が加わります。そして、グループ2の方は、大学生19名（女子10名、男子9名）と引率者2名（男女各1名）の計21名です。幸いカサロンの家には、スウェーデンやシンガポール、そして日本からの寄付で2021年に完成した2階建ての建物があるので、その建物の2階を女子部屋、1階を男子部屋とし、もともとあった韓国の個人支援の木造2階建ての建物に引率の先生などを部屋割りすることができました。トイレやシャワーの数など、どうしても不便なところはありますが、そこは学生らに我慢してもらいしかありません。そもそも、お客としてではなく、寄付や支援をさせてもらいに行く立場ですから。

●愛知大学タイボランティアツアー（グループ2学生課）

2018年と2019年に実施していた愛知大学の学生ツアーが、コロナ禍を経て2024年ようやく戻ってきました。コロナ禍前の2019年8月には、前半グループと後半グループの2グループで各30名の学生が参加し大盛況でしたが、コロナ開け初開催となる今年度は、男女各10名の計20名からのスタートでした。過去のツアーでは女子学生が大半を占めていましたが、今回、男子学生が半数も参加したのは少し驚きました。これも小さな時代の変化でしょうか。

8月5日（月）から11日（日）の7日間の日程で行程が組まれ、「カサロンの家」には3泊することになっています。

8月5日（月）	中部国際空港からバンコク経由でチェンマイへ	ホテル泊
8月6日（火）	カサロンの家へ移動 オリエンテーション	カサロン泊
8月7日（水）	カサロンの子どもたちの通う小学校を訪問	カサロン泊
8月8日（木）	観光 子どもたちにキムチ鍋を振舞う	カサロン泊
8月9日（金）	早朝にチェンマイからバンコクへ飛行機で移動	ホテル泊
8月10日（土）	バンコク市内観光 夜スワンナプーム空港へ	機中泊
8月11日（日）	朝8:00 中部空港着 解散	

カサロンの家でのオリエンテーションでは、寮を運営するユースチャリティー財団のタッサニーさんから施設の生い立ちなどの話を聞き、続いて、約20年前にスマップ×スマップで特集された姉妹施設のエイズ孤児院“希望の家”の映像を見せていただきました。学生らは真剣な眼差しでそれらを食い入るように見ていました。カサロンの家初日にこのような機会を設けたことはとても良かったと思います。

2日目の学校訪問では、学生たちの主体性に任せ、ほぼこちらからは何もしていませんでしたが、カサロンの家の子どもたちの通う小学校の協力もあり、折り紙企画やクイズ大会、合唱など、1時間ちょっとの短い時間でしたが、学生たちにとってとても有意義で盛り多い時間となりました。



3日目は、寮の近くにあるドイサケット寺院で観光し、その後、街中に近いCentralというショッピングモールで昼食を摂り、夕食で振舞うキムチ鍋の食材をmakroという業務用スーパーへ買い出しに行きました。帰寮後、学生らはすぐに調理に取り掛かり、見たこともないような豚肉の塊と格闘していました。出来上がったキムチ鍋はタイの子どもたちにも好評の様でした。夕食後、庭にコザを敷いてフェアウェルパーティとなりました。日本の学生らも心からの感想を述べながら涙で声を詰まらせる学生もいました。今回は引率として愛知大学の副学長でタイ語の専門家の加納先生が同行されたので、完璧な通訳をしてくださったのでとても助かりました。

4日目の早朝5時半にカサロンの家を出発し、6時過ぎには空港へ到着。今回もここには書けないようないろいろな事が起きましたが、一応ここでキャンヘルプタイランドの役目は終了となりました。

来年も大学主催で同様のツアーを実施していただけると良いのですが、今回かなりの課題が浮き彫りになりました。これらの課題をどう解決していくのか、今後の大学の動きが楽しみです。学生からの評判はとても良かったので、次回も必ず開催されると信じています。

募 集

～ 奨学金資料翻訳会 ～

今年6月の奨学金授与式で奨学生からの手紙を持ち帰りました。それらタイ語で書かれた手紙を日本語に翻訳してからドナーの皆様へお送りいたします。その翻訳作業を、9月29日(日)午後1時から事務所のフリースペースにてタイ女性の会(名古屋周辺で暮らすタイ人女性のグループ)の協力で実施します。タイ人女性と日本人とがペアになり、タイ語の手紙を日本語にする簡単な作業です。興味のある方はぜひご参加ください。

日 時： 9月29日(日) 13:00～16:00くらいまで

場 所： 共同事務所フリースペース

愛知県名古屋市中村区那古野 1-44-17 嶋田ビル 203号

参 加 費： 無料(もちろん報酬もありません)

作業内容： 奨学生からのタイ語の手紙を日本語へ翻訳 タイ人と日本人がペアで作業

参加方法： 事前に電話かメールで参加申込をお願いします。

電話・050-3578-5131 メール・office@canhelp.jp

お知らせ

～ご寄付のお願い～

各プログラムへのご寄付を広く募集します。ご協力くださる方は、同封の振込用紙もしくは郵便局に備え付けの振込用紙を使用いただき、必要事項及びご寄付を希望のプログラム名（寄付金の使途）を記入してお振込み下さい。尚、寄付金の使途をご指定にならない場合は、こちらで振り分けさせていただきますのであらかじめご了承ください。

奨学金プログラム(タイ・カンボジア)	1 □	10,000 円
ランチプログラム	1 □	5,000 円
建設プログラム	1 □	5,000 円
図書支援プログラム	1 □	1,000 円
山岳民族支援プログラム	1 □	10,000 円
カンボジア支援プログラム	1 □	5,000 円
運 営 基 金	1 □	1,000 円
会 費 ※	1 年	3,000 円

※ 会員制度とは…
 会員になっていただいた方には、年2回「ネットワーク通信」をお送りし、キャンヘルプタイランドの活動やイベント情報、タイにまつわるいろいろな情報をお伝えしていきます。年1回、会費 3,000 円をお振込みください。

寄付金・会費のお振込みは…

<郵便振替口座>
 口座名：NPO キャンヘルプタイランド
 番 号：00280-2-43793

運営委員会

(2024 年 4 月～8 月)

活動	月日	場所	内容
総 会	4 月 7 日	事務所	2024 年度総会
運営委員会	5 月 25 日	事務所	奨学金授与式について
運営委員会	7 月 27 日	事務所	愛知大学ツアー準備 奨学金資料翻訳会準備

運営委員募集中！

通常は毎月第 4 土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は 開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。

編集後記

今年も 24 時間テレビ（中部地区限定）で“カサロンの家”が取り上げられました。愛知大学のフェアトレードサークル SEED の企画で、タイのチェンマイで象のフンからアップサイクルされた紙を部分的に使用したアクセサリーを販売し、その売り上げの一部をカサロンの家へ寄付するというものです。その撮影のために 8 月 2 日からチェンマイへ同行したのですが、日本の学生らは、きっと今後の支援額以上のお返しを得たのではないかと思います。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.97>

発 行 NPO キャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2024 年 8 月 24 日
 住 所 〒450-0001
 名古屋市中村区那古野1-44-17 203号
 Tel 050-3578-5131（来所は要予約）
 E-mail: office@canhelp.jp
 URL: http://canhelp.jp